

第17回流山市全市コミュニティ推進委員会会議録要旨

- 1 日 時 平成23年12月15日（木） 午後2時
- 2 場 所 流山市役所第2庁舎305会議室
- 3 出席委員 相川 征治 委員長、狼 正久 副委員長
梅谷 秀治 委員、河村 栄夫 委員
小泉 尚子 委員、染野 智司 委員
野路 烝一 委員、倉田 繁夫 委員
高市 正高 委員
- 4 欠席委員 関谷 昇 委員
- 5 事務局職員 兼子 潤一 コミュニティ課長
須郷 和彦 コミュニティ係長
川崎 隆史 主事
- 6 協議事項 (1) 地域まちづくり協議会に関するパンフレット
について
(2) (仮称) 地域まちづくり協議会事例発表会に
ついて
(3) 平成24年度の地域まちづくり協議会につい
て
- 7 協議状況 開 会 午後 2時00分
閉 会 午後 4時58分

I. モデル地区からの報告

(1) 流山小学校区まちづくり協議会（梅谷委員）

配布資料

- ① 流山小学校区まちづくり協議会通信
 - ② 流山スプリングフェスタ菜の花まつり実行委員会規約（案）
- ・ こんなことをやったという報告がまちづくり通信、フェスタの実行委員会規約（案）については、協議会のメンバーと商工会議所でこういった形でやる予定であるというものである。フェスタもいきなり大きなものをするのではなくて、地道に一つずつ積み上げて将来に繋げるという形に変えている。
 - ・ フェスタの実行委員会については、案の段階ではあるが話しは進んでいる。
 - ・ フェスタは、主催の主体が協議会であり、それに共催の形で商工会議所が入る。協議会のイベントと考えている。
 - ・ 11月24日（木）に流山小学校長、教頭、教務主任と協議会のメンバーで合同役員会を開催。相川委員長、青野議員が参加。流山小学校も、少子高齢化にともない地域との交流が重要だという姿勢であることがわかり、よい話し合いができた。一度だけではなくて、継続させていくことが大事である。

委員からの質問

- ・ 流山小学校区まちづくり協議会は、現時点でどれくらいの経費を使っているのか。2月4日の事例発表会で質問が出ると想定されるのでしっかり出しておいてもらいたい。
- ・ フェスタ実行委員会規約第9条によると、補助金の受け手は実行委員会なのか、NSMKなのか。NSMKの事業でなければまちづくり協議会の事業の対象にはならないのではないか。
- ・ 委員会として、補助金を適正に使わなくてはいけないので、説明できるように、整理してもらいたい。

(2) 新川まちづくり協議会（染野委員）

配布資料

- ① 新川まちづくり協議会月次報告書（11月分）
- ② 新川まちづくり通信 No.8

・ 地域会議開催：

11月27日（日）15時～17時 北部公民館

「地域の課題・お宝まとめ」に関する意見交換

参加者33名

- ・ 地域会議で出された意見は、否定的なことはなく、概ね好意的なものであった。
- ・ 具体的な意見については、通信の裏面（1）～（8）参照。
- ・ 協議会で出た意見を市の関係部署と協議を重ねながら解決に向けて進めたい。3月頃第1回目の市との課題解決会議ができるように進めている。
- ・ 12月17日（土）餅つき大会開催予定
田植え、稲刈り、の集大成として行う。新川小学校児童にビラを配布し、200名程度の参加者を見込んでいる。
- ・ 餅つき大会と同時に、「肉食鳥（猛禽類）教室」開催。
- ・ 平成24年1月の新川まちづくり通信は、全戸配布を予定し、準備中である。
- ・ 月次報告に記載しているが、収支については半分くらいは経費として使っている。

委員からの質問

- ・ 現在新川まちづくり協議会には自治会は3団体のみでの参加であるが、地域会議にはどのくらい参加したのか。

（染野委員）

会長という立場の人は少なかったが、自治会員で興味のある人が参加してくれた。

（狼委員）

自治会としては9～10自治会から参加があり、1つは

入ってくれそうなので、徐々に増えていくのではないか。

- ・ 自治会に呼びかけなくても、きちんとした定例会やイベントがあるので、それらに参加した人が協議会を盛り上げていってくれれば、各自治会にも「参加してはいかがか」と呼びかけることができる。協議会に参加してくれている隠れた人材が、次の代の人材になるのではないか。
- ・ 新川については、NPOが中心であり、個人個人の関心のある人だけといったNPOにありがちな形である。今後は、やはり自治会、地区社協にもしっかり呼びかけていくことが必要である。

(染野委員)

NPOの多くはイベントだが、お宝発見に課題発見を絡めて進めたということはNPOの発想ではない。地域まちづくり協議会のアイデアだと思う。

(3) おおたかの森地区について (野路委員)

12月7日(水)に第4回安心・安全まちづくり協議会 モデル事業分科会が開催された。

蟻の目ワーキング

- ・ 蟻の目ワーキングのマップ作りは非常に進んでおり、HPを使って精密なものが見られる。地域の住民が求めているものがどこにあるのかというものを作っていく。防災関係に活かしてもらおうという狙いである。
- ・ 企業や江戸川大学の教授が座長になっており、地元ではなく新しいものをつくろうということで、よいものができつつある。新しいまちづくりということで、今までにはない形であり、これからも見守りたい。

分科会

- ・ マンション管理組合との合意書については、場所提供から相互連携を考えてもらうようにしたい。

- ・ 県から500万円の補助金が出ているので、県モデル事業評価へのまとめをしていく。
- ・ 消防施設の見学は、江戸川大学の教授が中心となり、大学の授業の一環であるが、まちづくり協議会の人も便乗した。
- ・ 「おおたかの森安心安全まちづくり」ということでHPが見られる。
- ・ イベントコンテストにマップ作りでエントリーしている。

活動企画として

- ・ 震災対応イベント炊出し事業、AED利用講習会実施事業、子育て支援NPO協働事業、震災対応講座開催事業、ファシリテーター養成事業がある。
- ・ ファシリテーター養成事業は、第2水曜に開催されている流山ファシリテータークラブによる講習会。来年1月からの流山市による江戸川大学でのファシリテーター養成公開講座にも協力する。

参加した行政・委員より

- ・ この協議会の中では立ち位置がないという感じだったが、次回以降は地元住民の参加と地域まちづくり協議会も視野に入れていくべきではないかとの発言もあったので、全市コミュニティ推進委員会も関与することがあるのではないか。
- ・ おおたかの森駅周辺は字名変更の審議会があり、おおたかの森1丁目から振り分けられる。その結果既存の自治会が道路や公共物で切られるので、どうするかということも含めて、自治会長を集めて来年から話し合いがスタートする。管理組合も絡めてまちづくり協議会を進めることができるのではないか。
- ・ 小学校区については、区画整理後は小山小学校、東武線沿いに小中併設校が建てられるので東武線が境になるのではないかといったところである。

(4) 長崎小学校区について（河村委員）

9月27日：まちづくり協議会準備会を設立

10月3日：市長宛に設立に向けた具体的なことを文書で提出

11月21日：準備会の打ち合わせ（コミュニティ課からの出席なし）

- ・まちづくり協議会規約の原案が提示されたが、新川のものをモデルとして考えられており、しっかりしたものであった。
- ・設立についても長崎小にあった具体的な形でまちづくり協議会をつくるにはどうしたらよいかということを検討した。
- ・まちづくり協議会の立ち上げにより、ふれあい納涼まつりを復活させることが柱になるとのことで、部会を作って部会中心で運営したいということの特徴的に話されていた。
- ・はやぶさの森は連合に入っていないが、うまく取り込んでいきたいと考えている。
- ・相川委員長より、来年は補助金50万円つくかどうかわからない状況になっている旨の説明と最悪補助金がつかなくてもまちづくり協議会は立ち上げてほしいと話をしたところ、冗談じゃないと、まつりをやるにはお金が必要だと強烈に言っていた。
- ・12月6日に次回打ち合わせを行う予定。

地区社協について


- ・12月18日に地区社協へまちづくり協議会の説明をするということが予定されていたが、横やりが入ってしまい、1月12日にコミュニティと地区社協とその人と話し合いをすることになった。
- ・1月12日の話し合いが終わってからしっかり報告したい。
- ・すっきりしないうちに地区社協だけ動いてしまうのも良くないと思うので、12月18日については報告だけすることになる。

Ⅱ. パンフレットについて

(1) 委員会案についての説明（染野委員）

P. 1

- ・ まちづくり協議会はなぜできたのかということについては下記の2つがある。
 - ① 「これからの流山 10年のまちづくり」総合計画
 - ② 状況の変化（少子高齢化・生活様式の多様化等）によるもの

 には、市の流れに沿って出てきたことを説明しており、その上でなぜ「地域まちづくり協議会」なのかということで1ページ目は構成されている。広範囲で可能にしなければならぬ、皆の力をあわせなくてはならないことが出てきたからだというので大雑把に説明している。

P. 2

- ・ P. 1に書かれていることで、具体的なことは何かということ(1)～(4)で説明している。
 - (1) 広い範囲で協力が必要なこと。
 - (2) 専門的な力が加わったほうがよいこと。
 - (3) 長期的な目で、皆の力で解決しなくてはいけないこと。
 - (4) 生活様式の多様化、複雑化により、誰の役目だとか誰でないとできないという壁を乗り越えて、必要なことはお互いにルールを守りながら、力を合わせてやっていかななくてはならないことが出てきているのではないかということ。
- ・ 長いので、(4)は削除してはどうかという意見も出ている。

P. 3

- ・ 組織・屋上屋・運営方法について説明している。
- ・ 図は仮のものなので図が確定したら、文章も変わってくる。重複するところはどんどん削っていく。
- ・ 屋上屋については、今まで言ってきたことを載せている。




- ・ 運営方法については、わかりやすく書いている。

P. 4

- ・ 今はどうなっているかということで、新川と流山の2地域のモデル協議会について書いてあるが、流山については膨らます必要があれば膨らませていただきたい。また、パンフレットを長期的に使うのであれば、ここはとってもよいのではないか。
- ・ 最後に「地域まちづくり協議会」は流山独特のものかということを書いてまとめている。

(2) パンフレット案についての意見交換・検討内容

事務局（行政）の意見



- ・ 全体的に文字を少なくするか縮小して、図やイラストを多くして見やすく、視覚的にもわかるような形がよいのではないか。
- ・ 1 ページ目の  は、最後でもよいのではないか。まず、まちづくり協議会はこういうものだということを示す。
- ・  については、行政の計画にあるから作りなさいというイメージにはせず、市民が自主的に作っていくということを強調したい。
- ・ 見開きの2ページ、3ページは、ページを逆にしてもよいのではないか。「組織」という言葉は屋上屋を呼びこむので変えていただきたい。まちづくり協議会はどういうものかということを2ページで説明した後に3ページでまちづくり協議会ではこういうことができるということを説明する。そこで文言を添えながら、現状とまちづくり協議会ならこんなことができるということを図で表せないか。
- ・ (4)の個人情報守秘等はいらないのではないか。行政としては載せるのは厳しい。
- ・ 最後の4ページ目は、設立に向けたフローチャートがあればわかりやすいのではないか。
- ・ 最後に、1 ページ目にあった  の内容と、流山独特の施策かというところを合作して表現してはどうか。他市のことはこん

なにとたくさんいらないのではないか。流山市について書いて、他市でもこんなことをやっているくらいのほうがよい。

- ・ 設立に向けてこういうものだという説明のほうがよい。
- ・ 来年はモデルではなくなるので、まちづくり協議会として紹介していただきたい。

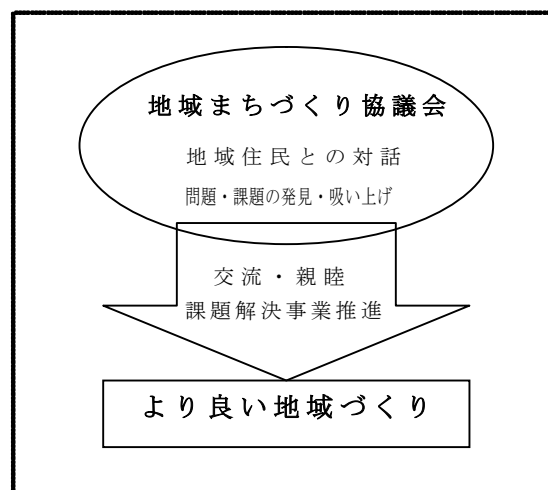
委員からの意見

P. 1

- ・ については、最後にもっていってしまうと、なぜ「地域まちづくり協議会」の考えが出て来たのですかということで始まり、唐突すぎる。やはり背景は入れた方がよいのではないか。
- ・ 後半3行「流山市は、平成22年度から進めている「地域まちづくり協議会」を平成31年度までに市内全小学校区で設立（原則：1小学校区に1協議会）することを目指しています」は必要なのではないか。
- ・ 「地域のニーズが変わってきているので、新しいコミュニティが必要なのではないか。流山市は小学校区ごとに「地域まちづくり協議会」を設立することを目指しています」くらいでよいのではないか。
- ・ 行政だけではすべてに対応しきれない時代になってきたので、市民も自主的に考えなくてはいけないということをいれて繋げる。
- ・ 委員からは、市の姿勢ははっきりと入れるべきだとの意見が多かったが、事務局からは、市の姿勢は入れても良いのだが、市が計画したからつくるということではなくて、あくまでも市民が自主的に作る、自主的に考えていくということを強調したいとの意見があった。
- ・ の「さらに～」の部分を活かしながら、行政だけではすべてに対応しきれない時代であること、少子高齢化等につなげ、市民が自主的にということでもとめる。

P. 2～3

- ・ P. 2～3については見開きになるので、入れかえてもよい。
(異論なし)
- ・ 「組織」という言葉については、屋上屋を誘導してしまうので使わない方がよい。「地域まちづくり協議会」はだれが参加しますかといった表現ではどうか。
- ・ 新P. 2の文で、()内の団体名を削除する。図に入ってくるのでダブらないようにする。
- ・ 図についても、大きさ等はきちんとやってもらう。
(狼案を例として)
 - ・ 地域まちづくり協議会の○の中には機能を書いているが、意思決定・事業推進、広報・渉外・調整は取り除き、地域住民との対話、問題・課題の発見・吸い上げだけにする。
 - ・ 矢印の中も交流・親睦、課題解決事業推進のみにする。
 - ・ 周りの団体等は数が多いので整理が必要であり、相談・検討事項としたい。行政の位置はもう少し下でよいのではないか。



- ・ 下の図(狼案)を検討してすっきりしたものを作り、それによって、文言を変えていく。
- ・ 新P. 2の「地域まちづくり協議会」はどのような組織ですかの説明文で下から4行目の「解決を依頼したりすることもあります」という表現は、流山市でパンフレットを出しながら何を

言っているのかということになるので、もっと行政も受け止めて、推進を図る用意があることを表現した方が良い。「行政と協働したり、共に解決に向かうこともあります」というように行政が解決することもあるということをもう少し謳いこんだほうがよい。

- ・ 新P. 3については、多すぎるので整理が必要である。
- ・ 事務局からは現状からまちづくり協議会ができるという形で解決するということを示せたらよいとのことだったが、かなり難しいとの意見があった。
- ・ (4)はわかりにくい。良く読めばではなく、すっと言葉が入ってこないのではいけないのではないか。
- ・ (4)を削除して、今はこうだけれども将来こうなるということは難しいので、ビジュアル的にどう変えられるかということで工夫させていただく。

P. 4

①フローチャートという案がでたが、非常に難しいのではないかと。



流れは上記のようなものだが、Step1 の人はどんな人か、どうやって思いつくのか。Step2 は、どういう形で集合されるのか。いろいろな部分を入れるとなるとなかなかフローチャートといった決まった形ではできないのではないかと。

- ・ ワンパターン化してよいのか。
- ・ フローチャートを作成するならば、1つの標準化したケースということで、地域によって違うということは注釈しておかなくてはならない。
- ・ フローチャートではなく、設立する時、どうしたらよいかという視点で説明をしてはどうか。全市コミュニティ推進委員会は、「まちづくり協議会設立にむけての環境づくりを進めていま

す」というのではなく、「ニーズのあるところからの相談をお待ちしております」という視点となる。

- ・ 流山と新川で何をやっているのかを具体的に書く。(流山については、梅谷委員が染野委員に120字で原稿を提供する。)
- ・ 新川は、NPOと自治会、さらには子ども会等も入っているので市民の団体、また市民有志ということを入れたほうがよい。
- ・ 通学路の安全を確保する活動、市道の改良を目指す活動についてはこれからのことであるが掲載する。

② 他市の例について

- ・ 松戸市についてはどういうものになるのかははっきり見えないのでいいのではないではないか。しかし柏市や松戸市の例は、香取市や佐倉市よりは近隣ということで入れたほうがよいのではないか。また、アスタリスクをつけて注釈にするなどの意見が出たが、事務局からは他市とは背景も異なるので入れなくても良いのではないかと意見があった。
- ・ パンフレットということで、事情が異なる他市については入れないこととなった。
- ・ 他市の例を削除する代わりに、まちづくり協議会をどのように設立したらよいかという内容のものを入れることとなった。

(3) パンフレット作成についての今後の予定

- ・ 1月10日(火)10時から事務局とのすり合わせ。
2月4日配布を目指し、逆算すると1月20日には入稿したいので、1月の勉強会(1月19日)で最終結論を出す。
事務局とのすり合わせ後、成案を委員にメールで配信する。
- ・ 配布方法については次回検討する。

Ⅲ. 地域まちづくり協議会事例発表会について

- ・ 名称を「地域まちづくり協議会モデル地区事業報告会」とする。
- ・ 開催案内：広報ながれやま1月21日号掲載

- ・ 日 時 : 2月4日(土) 午前10時から12時
- ・ 場 所 : クリーンセンター研修室
- ・ 内 容 :

開会の言葉等(兼子コミュニティ課長)	・・・	5分
市長挨拶(倉田市民生活部長による市長からのメッセージの代読、または倉田部長挨拶)	・・・	10分
モデル地区報告*	・・・	60~70分
休憩	・・・・・・・・・・・・・・・・	なし
関谷先生によるまとめ	・・・	20分
今後の考え方進め方等について、またパンフレットを配布できればパンフレットの内容にも触れてもらう。		
閉会の言葉・今後のこと・アンケート等	・・・	10分

※モデル地区報告については、下記2案のどちらかに次回決定する。

- ① [発表(20分)・講評(5分)・質疑応答(10分)] × 2地区
- ② [発表(20分) × 2・講評(10分)・質疑応答(20分)] として発表を先にして、講評、質疑応答はまとめて行う。

- ・ 準備その他 :

- | | |
|-------------------|--------------|
| ① 発表する協議会への依頼状 | } コミュニティ課で準備 |
| ② 広報ながれやま1月21日号原稿 | |
| ③ 開催案内状 | |

開催案内状送付先については前回シンポジウムと同程度を考える。(自治会・NPO・地区社協・民生委員等)

- ④ 発表協議会レジュメ
A4サイズ1枚で簡条書きのような簡単なものを新川は染野委員、流山は梅谷委員にお願いする。
- ⑤ 事前の発表内容の確認については、各担当委員が報告する。
- ⑥ 関谷先生との事前調整については、両協議会担当委員が発表内容を先生に報告する。また、どういうふうに言ってほしいかを伝える。

⑦ 当日配布資料については次回委員会にて決定する。

⑧ 当日担当については次回委員会にて決定する。

※依頼状・広報・各団体を集める（案内状送付含む）をしっかりと
ていばよい。

IV. 平成24年度予算について

【事務局より】

補助金審査会からは厳しい意見をいただいているが、100万円は死守したい。平成24年度は2つのモデルが地域まちづくり協議会として新たな事業を進め、また新たな協議会ができて新たな事業展開をしてもらいたいと思うが、3協議会になっても予算内でやっていただきたい。

地域まちづくり協議会を設立して事業を展開するところについては、広報ながれやま2月21日号で公募をかける予定である。公募後、認定されてあらためて事業はどういうものかということで事業内容を提出してもらおう。事業については、流山も新川も毎年出していただく。あくまでも事業に対する補助金なので、事業内容を提出していただいた後、補助金申請となる。

交付金ではなく補助金ということであるので、毎年事業単位という形はいたしかたない。

(16時58分閉会)